

‘紅まどんな’で問題となる病害虫(ヨトウガ)

カンキツを加害するヨトウ類にはハスモンヨトウやヨトウガがあり、春芽で被害が多いのはヨトウガである。紅まどんなでも春芽でヨトウガによる被害が多く見られ、また、葉だけでなく幼果も加害する。

○生態

成虫は年2回発生する。越冬は蛹(土中)で行い、4月下旬から羽化する。卵は塊で葉の裏に産み付けられ、孵化した幼虫は集団で食害する。3齢頃になると分散して食害し、6月下旬頃に6齢になり土中で蛹化し夏眠する。9月～10月に羽化し、10月～11月に幼虫が発生する。



写真1 春葉の被害



写真2 幼果の被害

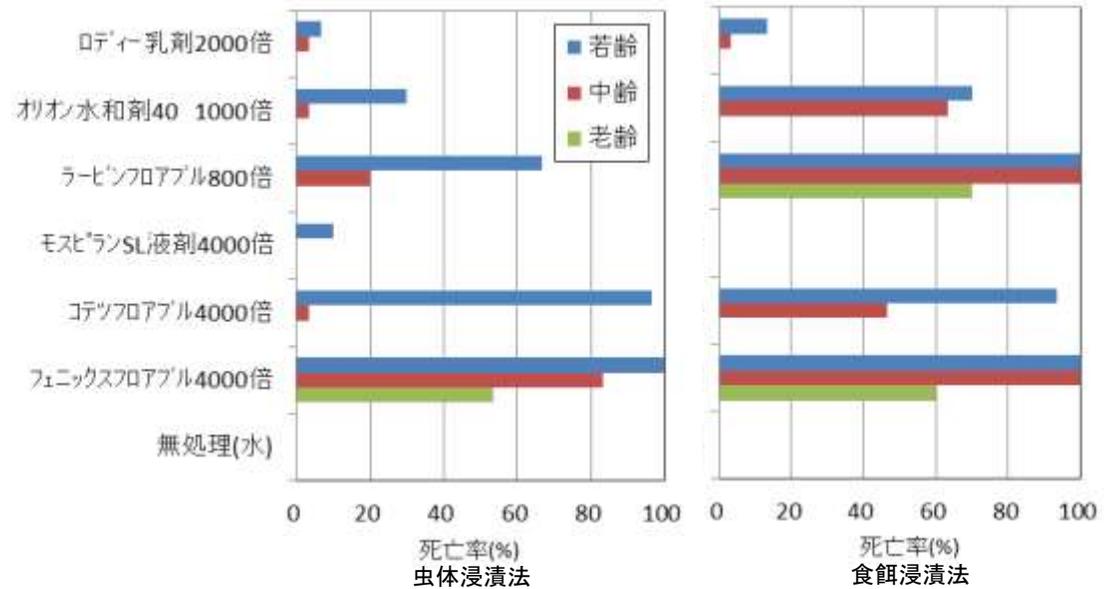


写真3 老齢幼虫

ヨトウガは野菜の害虫として有名で、雑草でも多発する場合があります。



○主要薬剤の効果



注1)各齢期は体長がおおよそ、若齢:7mm、中齢:1cm強、老齢:3cm強

注2)老齢はラーベインとフェニックスのみ実施

訪花害虫防除に用いられる薬剤(図中上から4番目まで)の中では、ラーベインは中齢まで効果(食餌浸漬)が高いが、他の薬剤は効果が低い。コテツは若齢に、フェニックスは中齢まで効果(虫体・食餌浸漬)が高い。ただし、現在ヨトウガに対し登録のある薬剤は無い。

齢期が進むと効果が低くなるため、若齢時の防除が必要である。

